

## 巻頭挨拶

この度部誌『土俵』第四十四号を発刊することができました。

これも、常日頃から相撲部へのご支援をしていただいているOB・OGの皆様、保護者の皆様、その他多くの皆様からのご協力あってのことでございます。改めてここで厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、平成三十年度は力及ばず新入部員を確保することはできず、上回生のみで過ごした一年となりました。

また、二十年以上コーチ役としてご指導いただいた松井正冬氏が、転職のため京都を離れられるという寂しい出来事もありました。

そんな一方で、戦績としましては、個人では山口副主将が七月の西日本体重別選手権大会100kg未満級に参加し、同階級では国公立勢初となる準優勝を果たし、相撲界限で話題を呼びました。また、八月には七大学総合体育大会相撲部門の主幹を務め、同大会では団体戦において第三位入賞を果たすことができました。

平成三十一年度は五月に行われる国公立大会の主幹を務めることになっております。昨年の反省を活かし、円滑な大会運営ができるよう部員一同準備いたします。

最後になりますが、このように部の継続、戦績向上は皆様のご支援があつてこそと感謝申し上げます。

今後も一層稽古に精進してまいる所存ですので、京都大学相撲部にならぬご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。

主将 浅田 恭國

※この部誌『土俵』は、京都大学相撲部HP (<http://kyodaisumo.sakura.ne.jp>) でも公開しています

URLも変更しております。ご注意ください。

# 土俵 第四十四号

## 目次

福島に向かう特急の車内にて	部長 鈴木 実	3
相撲を取り巻く環境の変化	OB会副会長 中川 泰彰	5
全国七大学相撲連盟理事長を拝命して	監督 佐藤 王也	8
部員紹介		9
絶対に強くなる	平成二十九年度主将 法学部四回生 板倉 幸平	13
未来の後輩たちに	平成二十九年度副主将 工学部四回生 山口 智史	15
今年の抱負	法学部四回生 吉田 岳史	18
平成三十年戦績		19
寄付者御芳名		26
お知らせ／編集後記		27

## 「福島に向かう特急の車内にて」

部長 鈴木 実

今、私は東日本大震災・福島原発事故で避難措置の設定（現在は解除）をうけた福島県双葉郡楢葉町にある中性子発生機器関係の会社に視察に向かう電車の中でこの原稿を書いている。

常磐線の特急の中で、スマートフォンにダウンロードした電子書籍を1冊読み終えたところで、メ切りに遅れている本原稿を書かねばと思いつたところである。子供の頃、学生時代、現在に至るまで続いている唯一の趣味は読書である。私の読書の嗜好は全く節操がない。近年、何をもつぱら読んでいるかという点、本屋大賞や直木賞系の本で、先が気になって読み進んでしまえば、しばしば夜更かしをしてしまう。熊取図書館を利用することもあるが、どこでも本が購入できてしまう電子書籍で本を購入することが多い。その結果、電車の中、トイレの中、風呂の中でもスマートフォンを手放さずに、本を読んでいる。そのお陰で、原子炉が運転中は、極めて多忙で朝早く出勤し、実験日では深夜帰宅が多いのだが、コンスタントに週に数冊は読んでいる計算になる。

しかし、これはある種の現実逃避の側面がある。締め切り有りの依頼原稿や様々な雑務が頭をよぎりながら、好きな本に逃げていたため、当然、様々なデスクワークの締め切り前には、机に縛り付けられPCの前で唸っている日々である（まさにこの原稿がそうである）。もう一つデスクワークがメ切りぎりぎりになる原因として、教授室で机に向かう時間がなく、実験室での業務が原子炉運転中は非常に多いことがある。自分自身の研究の実験より、他大学の研究者が、研究所の原子炉を利用しての共同研究のお手伝いとその業務の主であるが、それはそれで、若い研究

者の熱意がこもった実験のお手伝いは、なかなか楽しく刺激も受けることが多い。ノーベル賞をとった本庶先生が嘆いておられたが、若い研究者をとりまく研究環境は厳しく、業績第1主義で昇進の判断がなされる競争社会である。その事もあり、遠方からの若い研究者を少しでも支援できるように、何度も研究所には来られない研究者のために、その研究のお手伝いに時間を割いている。

同様の気配りは、当然のことながら私の研究室でも必要である。京大アメフト部の伝統は、最上級生が部室の掃除や片付けの雑用をして、新入部員には雑務をさせずに、体力作り、練習に最大限の時間を与えるようにするということを、京大アメフト部がライスボールで社会人に勝っていた最強のころの数十年前の新聞記事で読んだ記憶がある。研究室の教授は、京大アメフト部の最上級生と似たようなもので、私の研究室の助教に自分自身の実験を行う時間を確保させるためには、私自身が動き回る必要がある。ただ、助教は、外からの研究者のお手伝い、お世話が忙しくて自分の研究が進まなかったという言い訳はつけないわけで、逃げ道のない厳しい研究環境を与えているつもりである。

話は冒頭に戻る。小野先生のあとをついだ私の研究室はホウ素中性子捕捉療法 (Boron neutron capture therapy, 以下 BNCT) という中性子を使用するがんの放射線治療の研究がメインである。この治療は、今後は病院併設可能な中性子発生小型加速器を使用することが中心となり、原子炉での治療はひっそりと幕を下ろす。加えて、6年後には研究炉で使用した使用済み燃料の米国輸送期限の設定から、研究用原子炉自体が廃炉になる予定である。しかし、これから医療機関連でのBNCTが順調に進展し普及していくと、基礎研究がより重要になり、かつより多くの若い研究者にBNCT研究に参画してもらおう必要がある。そのために、最も頭を悩ませるのは、将来の中性子照射場の確保である。原子炉は、ウラン燃

料を燃やし、BNCT生物実験が必要な十分な中性子量を供給し続ける意味での実験ツールとしては極めて有用である。この条件を加速器で実現する難しさは、今回の医療機器開発で痛感したところである。近い将来に、この研究用原子炉という中性子源が、国内から失われる（福井県に新たな研究用原子炉建設の計画はあるが、実現は厳しい）。近い将来、BNCT基礎研究が先細りにならないためには、加速器中性子源が国内で数カ所整備される必要がある、その調査の一環として冒頭の福島県の会社に視察に向かっているところである。

BNCTの臨床研究は医療機関にその場が移り、適応疾患を増やすなど、様々なガン治療の選択肢のなかで、独自の位置を獲得するための、大きな仕事に向かう通過点、過渡期にある。一方、研究所にある私の研究室は、これまでのような医療機関の先生方と行ってきた臨床業務はいづれなくなり、基礎研究のみの研究室になる。研究所には、加速器中性子源は確保される可能性は高いと思うが、国内全体をみると研究炉を使用して実施してきたBNCT基礎研究を国内数カ所に分散させる必要がある。その準備をしておかないと、今後増えていくことが予想される、臨床研究から要求される基礎研究、臨床研究に活かされる基礎研究を実施する中性子照射場が不足することになる。その点で、基礎研究もこの数年の研究成果が飛躍のために必要であり、重要な過渡期にある。

過渡期というのは、それなりにワクワクするものである。若い研究者にとっては、自分の研究が大きな仕事に発展する可能性があり、ある程度出来上がった仕事の重箱の隅をつつくような研究ではないという楽しさがある。その過渡期の基礎研究の環境整備が、私の現在の大きな仕事である。小野先生のあとをついで、これまでの5年間は、上述した加速器BNCTの治験の完遂が、最も重要な業務であった。一応その業務は、ほぼ無事に完了し重い肩の荷を一つ下ろした気分である。治験に使用し

た患者さんの点滴室も、私の研究室の実験室に整備し直したところである。趣味の話にまた戻るが、暇だけはある学生時代の私のもう一つの趣味は映画鑑賞であった。私が学生時代に観た映画で「私は女優志願」というニールサイモンが原作の小品がある。誰も知らない映画と思うが、ラストシーンが気に入っており、今でもよく覚えている。ストーリーは、離婚して長く離れて暮らしていた父のところ将来に悩みを抱えた女優志望の娘が会いに行くという話で、最初は喧嘩ばかりしていた父と娘が、最後に和解してハッピーエンドというハートフルコメディである。主人公の娘が、母親と住むニューヨークに帰るバスのなかで、“I am going transient.” とつぶやくのがラストシーンであった。将来の不安ではなく、これからの自分の将来が楽しみというセリフであると思える良品の映画であった。父親が私の好きな俳優のウォルター・マッソーであった。最近、外から来る大学院生の実験の手伝いをする人が多いが、もし早く子供が生まれていれば、自分の子供くらいの年齢の院生と話をする機会が多い。老け込む気はないが、あの映画で、娘を優しく送り出すウォルター・マッソーに自分を照らし合わせてしまう。

現役諸君は、学生の現在も、社会に出てからも10年くらいは、仕事、人生の過渡期である。その過渡期を楽しんでほしいと同時に、それを守る家族、先輩、上司の存在を忘れずに社会の荒波を乗りきってほしい。最後に説教めいた文章になるのも、年をとったと思う今日この頃である。

## 相撲を取り巻く環境の変化

OB会副会長 中川 泰彰

2018年4月の京大相撲部OB会で副会長を拝命いたしました中川泰彰です。今回、IJC、国体、ドーピング、京都府競技力向上本部と相撲の関係について、色々と記載させていただきました。

ご存知の方も多いと思いますが、国際相撲連盟は2018年10月にアルゼンチンのブエノスアイレスで開催された国際オリンピック委員会(IJC)総会で承認団体に推挙されました。それまで、12年間準承認団体であったのが、苦節12年でやっと格上げされました。承認団体になったから、すぐにオリンピック競技のなると勘違いされている方々も多数おられると思いますが、そうではありません。現に、先日2024年パリオリンピックの開催国推薦競技で野球・ソフトボールや空手が排除されました。したがって、相撲がいつオリンピック競技に採用されるかの見通しは立っていませんが、一歩前に進んだことは間違いありません。

思い起こせば、先々代のIJC会長のスペイン・バルセロナ出身のサラランチさんは、相撲が大好きでした。2008年のオリンピック開催地が北京ではなく大阪であったなら、相撲がオリンピック競技に選ばれていたともいわれています。先代の会長であるベルギーの元整形外科医のジャック・ロゲさんは、「相撲のような肥満体のどこがスポーツか」と相撲をさげすんでいた方であり、冬の時代でした。現会長のドイツ出身のバツハさんは、会長就任時、オリンピックが肥大化してきたため、参加選手数をあまり増やさない形で、競技数を増やしてもよいと発言され、相撲のような個人競技に有利な状況が生まれています。

その相撲も、国内では窮地に立たされています。国民体育大会(日本体育協会が昨年度、日本スポーツ協会に名称変更した関係で、そのうち、国民体育大会も国民スポーツ大会に名称変更する予定)も参加選手数を減少させるため、競技種目数を38競技と定めています。各競技をポイント制にして、点数の低い競技を毎年開催から隔年開催に格下げしつつあります。競技人口が少ない相撲は、現在毎年開催の最下位グループに属しており、隔年開催になるものなら、もつと競技人口が減少すると思われ、日本相撲連盟幹部は危機感をもって、運営にあたっています。その中で、何とか国体に女子部を作ろうと頑張っているのですが、何しろ、日本女子相撲選手権大会の高校生以上の参加者が増えない点、まだ、47都道府県中、選手派遣できるのが約半分という点で、苦戦していると聞いています。10年前の見込みでは、2019年茨城国体から女子相撲も参加できると踏んでいたのですが、何ら前進なく、その2019年が今年きてしまいました。現在、相撲の競技人口が一番多い年代は小学生であり、わんぱく相撲がそれに大きく貢献しており、今年初めて女子のわんぱく相撲大会が全国大会として開催される(2020東京オリンピックのボクシング会場となる両国国技館がその準備のため、今年の男子のわんぱく全国大会が靖国神社相撲場で開催されることもあって)ことも一つの起爆剤にならないかなとの期待も込められています。

ドーピングの世界では、世界アンチ・ドーピング機構(WADA)が10年に一度の大きな改訂を2015年に行い、それまで検体の保存期間が8年であったところが、今は10年になっています。したがって、2008年の北京オリンピックの時代には検出できなかった薬物が現在検出できるようになり、昨年、北京オリンピック日本男子の400mリレーが銅メダルから銀メダルに繰り上げされました。現在、日本国内のドーピング検査数は5,000件以上であり、違反者(年間5から10件)は日

本アンチ・ドーピング機構(JADA)のホームページのパネルの項目を開いていただくと、誰でも、見ることができます。ただし、罰則期間中のみの掲載です。競技選手が続いていると自負されている方々は、禁止物質をJADAのホームページから簡単に検索することができます。Global DROをクリックし、その手順通り進めていくと、禁止物質である、禁止物質は含まれていない、わからないなどの回答が得られます。ご利用ください。また、今までも禁止物質になっていたのですが、2017年1月から注意するようJADAから指導のあった物質があります。ヒゲナミンですが、これは、漢方薬、海外のサプリメントのほか、ノルコクラウリンが入っているスポーツマン用食品、南天のど飴・茶などに含まれている可能性があります。これらの物質の摂取を避けてください。

最後に、京都府競技力向上本部と京都府相撲連盟との共催で、2008年2月から京大の土俵で、未来のトップアスリート育成事業（現在は夢未来）が行われています。これは、京都府では、国体参加競技38競技中約10競技で行われているようで、プロレベルの競技者や指導者を呼んできて、小中学生に競技を指導するというものです。毎年、春場所前の2月の最終日曜日の朝から開催されており、2019年は本日から行われました。図1はその様子です。同志社大学との関係で、毎年甲山親方、勢関、錦木関などの伊勢の海部屋関係者が来てくれます。京大は場所を提供する関係で、佐藤監督や現役部員の参加が許されており、図2のように、現役部員大津君が錦木関と、佐藤監督が勢関と相撲を取りました(図3)。私は、京都府相撲連盟副会長の立場で参加し、毎年開会式で相撲における外傷・障害の注意点を述べさせていただいております。図4は終了後に関係者で撮影した写真で、錦木関、勢関、京都出身の幕下の鳴滝関、都川関、京都府競技力向上本部の三浦さん、京都府相撲連盟理事長の田村直也さん、私です。

以上、最近の相撲を取り巻く環境について記載させていただきました。京大相撲部現役諸君、今年も頑張ってください。また、OBの皆様方、今年もよろしく願います。



図1



図 2



図 3



図 4

## 全国七大学相撲連盟理事長を拝命して

監督 佐藤 王也

平成30年度の七大学戦においては、京都が主管を務めたこともあり、沢山のOBの皆様に御協力いただきました。改めて御礼申し上げます。

本大会には、山極壽一・京大総長にも御臨席いただきました。

山極総長はゴリラ研究の第一人者でもあられるが、七大学戦直前の日経新聞にて「ゴリラの動きと相撲の動きは似ている。雄のかっこよさを追究した結果であろう」との旨の記事を投稿しておられました。

時の総長が相撲に言及しておられることにご縁を感じ、現役員から総長宛に招待状をお送りしたところ、日曜日にも関わらずお越しいただいたという次第です。学生からのメッセージにしっかり向き合っていた、大変ありがたいと思います。

さて、その七大学戦後には各大学の代表者等が集まり、七大学連盟総会が開かれました。

平成29年度総会にて、会長職が加藤延夫先生（元名古屋大学総長）から羽毛田信吾先輩に引き継がれました。

今回は正副理事長の交代ということで、12年務められた細谷辰之理（名古屋大学相撲部師範）と新田一郎副理事長（東京大学相撲部長）がそろって退任されました。

そして、後任理事長には、あろうことか私になってしまいました。新副理事長は久保裕也氏（東北大学相撲部OB、福岡工業大学准教授）です。

七大学相撲部が活動を継続できるよう、また七大学戦が選手にとってより良い思い出の大会となるよう、微力ながら精進して参ります。

そんな事情もありますから、七大学相撲部に関するトピックスを2つ。まずは、九州大学。ここ数年は部員がおらず休部状態でしたが、九州に赴任中の岩垂航介氏（大阪大学相撲部OB、平成28年卒）の尽力もあり、部員を獲得。今大会からめでたく復帰し、おかげで七大学相撲部が全てそろえることができました。

次に北海道大学。創部は最も新しい一方、勢いはおそらく1番でしょう。他大学が新入部員獲得に苦しむなか、北大は10人以上入れたとか。そんな北大は、自前の土俵建設に向け活動中です。これまで利用していた公共の土俵が工事でしばらく使えなくなり、稽古場確保は悲願です。北大相撲部ホームページでは寄付のお願いなどしておりますので、御一読いただけますと幸いです。

さて、我が京大ですが、定期的に訪れる「消滅危機」の時期に入ってしまった。先日4回生がめでたく追い出されましたが、これにより現役は3回生（4月から4回生）3人だけとなっています。

結果として七大学連盟の会長・理事長を出すことになった京大が消滅しては非常に寂しい。

消滅危機を何度も乗り越えてきた相撲部ですから、今回もなんとか乗り越えようという思いもありますが、やはり不安です。一層リクルート活動に力を入れていく必要があります。

現役はもちろんビラ配り等をはじめとした新歓活動に邁進しますが、OB・OGの皆様も、相撲部に興味のあるような京大生ないしは高校生がおられましたら是非とも京大相撲部の存在をお伝えいただきたいです。合わせて相撲部にも御一報ください。可能な限り私や現役員が直接会いに行きたいと考えます。皆様が支えてこられた相撲部を伝えていくため、今一度力をお貸しください。現役・OB・OGの両輪でこの危機を乗り越えたく、何卒よろしく願いいたします。

# 部 員 紹 介

- 1 名前 2 学部学科、回生 3 出身地、出身校 4 生年月日  
5 京大周辺で好きな飲食店 6 趣味 7 無人島に持っていくもの 8 今年の思い出  
9 自分が相撲部で一番で思うこと 10 来年の抱負  
欄外 他者紹介



第92回西日本学生相撲選手権大会  
平成30年6月3日(日) 堺市大浜公園相撲場にて



- 1 山口智史
- 2 工学部 工業化学科 4 回生
- 3 熊本県、熊本高校
- 4 1995 年 7 月 11 日
- 5 綴
- 6 毎日続けていることとするなら健康体操です
- 7 板倉くん
- 8 相撲の知り合いが沢山できました
- 9 1 日に飲む水の量 (6L)
- 10 新しい新入生には勝つ

～部員紹介～

前副主将。言わずと知れた京大相撲部の絶対的エース。近大の選手を破り西日本体重別 100kg 級準優勝に輝くなど前人未到の功績を成し遂げた。その空前絶後ぶりは強さだけにとどまらない。国公立大会ではタイトル保持者であったにもかかわらず「TOEIC を受けます」と大会を欠場する驚天動地の行動に出た。



- 1 板倉幸平
- 2 法学部 4 回生
- 3 三重県四日市市 四日市高校
- 4 1996 年 5 月 5 日
- 5 つけ麺マン(閉店)
- 6 将棋
- 7 溺れると困るので浮き輪  
見えないと困るのでメガネ  
日焼けしたくないので日焼け止め
- 8 相撲をやりきって引退したこと
- 9 善人感溢れるオーラ
- 10 家裁調査官の試験に受かりたい  
相撲はもういい。

～部員紹介～

最軽量の座を後輩に譲った前主将。京大相撲部の常識担当。五体が次々に壊れる中、挫けずに勝つための相撲を研究し後輩たちに模範を示した。引退後は彼女の厳命によりダイエットを敢行した。浅田を始めとする非常識な後輩達が心配でならないのか、どうやら一緒に卒業してくれるようだ。



- 1 浅田恭國
- 2 経済学部 3 回生
- 3 大阪府河南町 西大和学園
- 4 1997 年 12 月 16 日
- 5 棒野
- 6 旅行・野球
- 7 地図
- 8 屋久島に行ったこと
- 9 ボードゲーム
- 10 進路を決めたい

～部員紹介～

平成 30 年度主将。京大相撲部の次期エース。豪快かつ安定した取り口で来年度も部を牽引してくれるだろう。女性との付き合い方は未だに解らないが、怪我との付き合い方はようやく理解したようで整形外科に足繁く通っている。物の扱いが雑で去年の秋に買い替えたはずのスマホがもう壊れかけている。



- 1 吉田岳史
- 2 法学部 4 回生
- 3 千葉県鎌ヶ谷市、渋谷幕張高校
- 4 1996 年 6 月 8 日
- 5 快活 CLUB
- 6 一人旅、競馬、匿名掲示板閲覧
- 7 可愛い女子
- 8 スペインのバルセロナで  
パスポートを盗まれて面倒になったこと。
- 9 暇人度
- 10 痩せて顔の肉を落としたいです。

～部員紹介～

京大相撲部のポイントゲッター。昨年度よりさらに突き押しに磨きがかかり、全国インカレでは新鋭選手を立ち合いの諸手突き一発でひっくり返した。実生活は謎に包まれており引退後は声をかけると大抵関西にはいない。最近地下アイドルは卒業したらしいが、相変わらず JRA には買いでいるようだ。



- 1 大津 昂平
- 2 法学部
- 3 大阪府豊中市 西大和学園
- 4 1997年7月6日
- 5 とくら
- 6 人様に言える趣味を募集中です
- 7 痩せてた時には履けてたGパン
- 8 白川合宿で沢山の蛾に怯えたこと
- 9 入学してからの体重増加率  
(56kg→105kg)
- 10 相撲:部の存続  
私生活:進路を定める

～部員紹介～

平成30年度主務。京大相撲部の赤メガネ担当。得意技は光熱費の滞納。必殺技は送電停止。昨年度に比べてまずまずの成長を見せたが、取組中は前と後ろにしか動けないのでそろそろ横にも動いて欲しい。優れた方向感覚は健在で、駅徒歩4分の国公立大会レセプション会場へたどり着くのに45分かかった。



- 1 堀野智康
- 2 工学部電気電子工学科
- 3 奈良市、東大寺学園
- 4 1997年5月23日
- 5 にぼ次郎
- 6 競技プログラミング
- 7 GPS メッセンジャー
- 8 骨折
- 9 伸び代
- 10 部活、学業ともに強くなる

～部員紹介～

平成30年度副主将。京大相撲部最軽量の業師。得意技は居反りなどの大技で、馬力よりもトリッキーな動きで勝利を目指す。普段何を考えているかあまりわからないが、SNSでは頻繁に呟いているので何をしているかは大体把握できる。よく生活リズムが乱れすぎていて心配になる。

## 絶対に強くなる

平成二十九年年度主将 法学部四回生 板倉幸平

「君にはセンスがある」という新入生に向けたリップサービスにコロリと騙されて入部した(してしまった)相撲部も十一月のインカレが終わって遂に引退するところとなった。他大の同期に比べてもいまいちパツとしない戦績で、京大相撲部での公式戦通算勝率は5割にも満たないが、それなりに充実した日々であった。欲を言えばもう少し勝ちたかったが、部誌の寄稿文の題材は別に相撲と関係のない題材でもよいが、怪我を抱えつつも3年半やり切った日々に対する思いは一人である。折角なので京大相撲部での日々とそこから学んだことを綴っていききたい。まずは入部してから引退するまでを振り返っていくことにする。

私は別に相撲が好きだったわけでもないし、特別体が大きかったわけでもない。軽くても活躍できるという甘い誘い文句と、ここなら運動経験に乏しくても活躍できるのではという甘い考えのもとで入部したに過ぎない。ところが入部してしまえば明らかに重たくなつたぶつかり稽古と、回数の増えた四股と摺り足、頭からぶつかれとか訳のわからないことを言われるし、先輩方にはまるで勝てない。お前は弱いから諦めると早く言ってくれたらよかったのに、先輩方は「お前は絶対に強くなる」としか言ってくれない。絶対に強くなるのだったら早々に諦めるのももったいなかるうということで(我ながらちよろすぎると思う)、ヒーヒー言いながらとりあえず稽古を続けていくことにした。

網膜剥離(相撲はあんまり関係ない)や肉離れなど多くの怪我を相撲部で経験した。怪我をするたびに相撲がとれない日々が1か月ほど続くこととなったが、下半身のトレーニングや筋トレをして怪我の期間は過ぎた。ハッキリ言っても面白くない。筋トレなんかしてもお前は何も変わらないし辞めてしまえと言われたらすぐに辞めたものの、先輩方は「お前は絶対に強くなる」としか言ってくれない。相撲に復帰したら絶対にぶちのめしてやると思いつながら相撲をとれない日々を過ごした。ちなみに相撲を再開してもぶちのめすことは叶わなかった。悔しい。そんな怪我とリハビリを繰り返す中で脱臼をすることとなる。

ここで少々話は脱線するが、未来の新入部員に向けたアドバイス。肩の怪我はクセになってしまうので、早めに病院に行くことをおすすめする。一日たつて痛みが引いたとしても亜脱臼になっている場合もあり、自己診断は当然できない。亜脱臼のうちに肩を正しい位置に戻すようリハビリをしておかないと、脱臼をしやすくなる。脱臼してしまえば手術をするしかよくなる方法はない。何事も早期発見、早期治療が大切である。脱臼をしようとする相撲が本当に楽しくなくなる。面倒かもしれないが、肩がゴリつという音を立てて上がらなくなった場合はすぐに病院に行つてほしい。もしタイムマシーンがあれば、否が応でも過去の自分を病院に連れていく。それほど早く受診しなかったことを後悔している。先輩の皆さんには同じ過ちを繰り返してほしくない。

さて話を戻す。詳しい日付は忘れたが3回生のころに私は脱臼をした。脱臼の何が悲しいかというと、腕も伸ばせず差せもしないということである。肩を外すまで多用していたのど輪で相手を起こす相撲も、突っ張りで様子見する相撲もできなくなつてしまった。相撲の技が出せないというのも勿論であったが、相撲の最中に脱臼の恐怖が頭の中を支配することが特にツラかった。土俵際まで相手を追い込んで最後の一押しをし

ようと思っても、脱臼の恐怖から腕がすくんでしまうようになってしまった。脱臼をしたあたりから相撲が全然楽しくなくなった。

しかし、楽しくなくなったからと言って簡単に退けるほど費やした時間は短くない。どうにか勝てる道は残されていないかと探しぬいた結果が相手の腕を手繰る相撲であった。やつと見つけた活路を殺さぬよう、来る日も来る日も稽古では相手の腕を狙い続けた。4回生時の国公立大会ではこの地道な努力が結果につながり、4年間で唯一勝ち越した大会となった。3年間続けてきてようやく相撲をしていてよかったと思えた。この日の成功体験が無ければ、こんな振り返りなどしていなかったであろうし、当時の自分には感謝したい。

この時点で個人的には相撲を続けてきた日々には価値を感じることもできたとし、七大戦を終えたらすつきり相撲を辞めようと本気で思っていた。結果として堀野が鎖骨を折るというアクシデントに見舞われたことで団体戦のメンバーが足りなくなったため東大戦や全国インカレにも出場することとなったが、七大戦後の大会に関してはそれほど思い入れがない。一種の燃え尽き症候群である。ただ、七大戦、東大戦、全国インカレと東大の湯浅に三連敗を喫しリベンジを果たせなかったことは大変心残りである。

入部してから引退までをざっと振り返ってみたが、怪我に泣かされた現役生活であった。

相撲部で学んだことはたくさんあるが、「考え、工夫する」ということの大切さを特に感じたので後輩たちに偉そうに語ることにする。

皆さんは惰性で稽古をしていないだろうか。なんとなくで相撲をとってはいないだろうか。同じような負け方を繰り返してはいないだろうか。

四股にしても摺り足にしても、なんとなくしていてもそれなりに汗をかくし、運動した感を出すにはいいかもしれない。ただそれは強くなるための稽古だろうか。適度に汗をかきに来るのはOBになってからでもできるのだ、現役部員のうちはどうか強くなるための稽古をしてほしい。与えられたメニューをただこなすところからもうひとつ段階が上の稽古をしてほしい。

相撲にしてもそうである。なぜ負けたのか、どの部分で負けたのか、次の取り組みでは何を変えようか、うまくいったのもう一度同じものを狙うのか、新しい技を試してみるのか。相撲を一番とるにしても考えられることは色々あることに気づくだろう。なんとなくで相撲を何番もとるような無駄な時間だけは過ごしてほしくない。引退までの時間は長いようで意外と短い。

「強き者よし、弱き者更によし」

京大相撲部には私のように運動経験に乏しい者も受け入れて育ててくれる素晴らしい環境がそろっている。強くなるのに必要なことは真面目に工夫して稽古に取り組む姿勢と、強くなってやるといふ情熱である。今は芽が出ずにくすぶっている人も、弱き者更によしの環境を十分に活かして研鑽を積んでほしい。たとえ今の自分が弱くとも、怪我をしていようとも、努力と工夫次第で絶対に強くなる。

## 未来の後輩たちに

平成二十九年度副主将 工学部四回生 山口 智史

私も現在四回生となり相撲部生活も三年を越えました（入部したのは一回生の十月一日）。相撲部には先輩、後輩、OBの方々をはじめたくさんの人との出会いがあり、また支えてもらって今があると思います。そして一月の断髪式による正式な引退を迎える前の十二月にこの原稿を手がけています。

過去の先輩方の寄稿を見てみると様々な内容が見受けられますが、傾向として

- ・ 新入生時代に書いた入部までの経緯
- ・ 在学中の思い出（相撲部に関係のない話も含め）
- ・ 思い出の取り組み
- ・ 趣味

大きく分けてこのように分類できると思います。別にその内容だったからステレオタイプだとかで虚仮にしているわけではありません。どの寄稿も楽しく読ませていただきました。私も例にならないこのいずれかの話をしようと思ってみましたが途中で考えるところもありこうして書き直しています。私は卒業後も未永く相撲部とは関わっていきたくと思っ  
ていますが人生何が起きるか分かりません。いつか名簿に載るだけのOBになるかも知れません。そうなるのもその時に現役で相撲をとる未来の後輩たちに直接口で伝えられなくても書面で伝えられるようにこの機会を利用してメッセージを送ろうと思います。部室でこれと呼んでいる人、ホームページのPDFでダウンロードして読んでいる人、あまり構えなくてもいいので気軽に読んでください。

メッセージを送るといいながら始めに質問するのは心苦しいですが、君たちはなぜ相撲部を選び、そして相撲をとっているのですか？相撲は好きですか？

これが僕にとって永遠のテーマになるかも知れない疑問です。今はもう違うかも知れませんが関西学院大学の監督である椿本さんからこの疑問を投げかけられました。彼からしてみれば過去に相撲をやっていたスポーツ推薦で入ったわけでもなく、競技人口も少なく特に人気であるわけでもなく、言ってしまうえば京都大学という学問に重きが寄る大学に通いながらも相撲を選び、そして私立大学に出稽古に来るほど相撲を嗜むのかという意味で聞いてきたのでしようが、僕にとっては相撲哲学にもなりうる、相撲生活を始めた自分自身を見つめる疑問となりました。一体何が自分をここまで熱中させたのでしょうか？

はつきり言えばまだ確たる答えを見出せていません。これを読んだ後輩は僕と会ったときにはその答えをぜひ教えてほしい。ただ、答えに最も近いかもしれない考えがあります。

まず僕は相撲が大好きです。始めの動機なんてお金が余りかからなくて済むし部員の方たちも人柄がよさそうだというくらい、探せば他の部でもありそうなものでした。今となってはプロやアマチュアトップクラスの方々の取り組み動画を見て研究し、その差を埋めるべく稽古のほかにウエイトトレーニングをはじめ、四股の踏み方に一喜一憂するような如何にも相撲部って感じの部員になりました。しかし何の苦も感じることもが無く特に三回生の頃はこれが当然でこのくらいもできなくては自分の弱さを嘆くことすら許されないと本気で思っていました。プロを見据えて学生相撲に臨んでいるわけではなく、スポーツ推薦で望まれて入部

したわけでもない、特に国立大学のような大学から相撲を始める子達は相撲が好きでやっているはず、何の重圧も束縛も無い僕らこそが誰よりも相撲を楽しんでいなければこの世界には居場所が無いと信じて疑いませんでした。

僕自身の相撲好きのほど(上っ面で語れる範囲)は分かっていただけでしようが、まだ質問への答えを述べてはいません。僕が相撲を続けられたのはきつと相撲を好きになるまで相撲のことを考えていられたから、これに尽きると思います。始めから相撲が好きだったわけではありませんでした。朝青龍や白鵬の名は知っていても二人の顔の判別はつかないほどでした。しかし相撲をとるにつれどうすれば強くなるのか、どうしたらプロのような相撲をとれるのかひたすら考えました。四股の踏み方から始まり蹲踞や所作のふるまいまであらゆることに思索しました。今思うとこうして相撲について考えるようになった時点で相撲が好きだったのだと思います。相撲自体に水が合ったのもあるのでしょうか、考えれば考えるほど相撲は多くの魅力を出してきます。学問や恋愛と同じことです。考えなければ対象はただ通り過ぎていくだけです。考えればその深みにはまってしまいます。その深みにはまったが故に、その相撲の魅力を考えてしまうことで垣間見たが故に相撲をもっと知りたいと続けてきたのだと思います。あくまで僕が出した結論ですから皆がみなこのように感じる必要は無いと思います。それよりも新しい相撲愛の形を見てみたいのでぜひ精進してください。

ここで一つだけ、アドバイスらしいことを言っておきたいと思います。部に入学しても相撲部生活が大学生活においてどのぐらいのウエイトを占めているかは人それぞれだと思います。バイトやサークルにも重きを置きたい、健康維持で四股を踏みたい、体作り、憩いの場などなどあるでしょう。大いに結構なことだと思います。数ある選択肢の中から相撲

部を選んでくれたことは感謝します。ただし、やる時には夢中でやらなくてはいけないと思います。これはどんな動機であれ一貫していなくてはならない唯一の条件だと思っています。貴重な大学生活の時間を削って部活に來てもただ与えられたメニューをこなすだけ、自分にとって一番適した四股や動きを考えないで相撲をとる、百害あって一利無しです。健康もへったくれもありません。そこで残るものなんて相撲をやったというタイトルだけで、中身なんて何も無い自分の満足感だけでしか語れない薄っぺらな項目です。そんなことするくらいならもっと刺激的で非日常的なところへ移籍しましょう。時間の無駄です。土俵の上で死なれても困るので早く部をやめましょう。

感情でものを言い過ぎましたがこの考えは実に大事な考え方です。皆さんが思っている以上に大学生生活というものは自由で、貴重で、短いものです。高校生活の延長ではないのです。選択肢は無限に思えるほど多様でその責任はすべて自分が負わなければいけません。誰も自分の生き方に責任なんか取ってくれません。だからこそこの短い学生生活では自分が納得する選択をすることが必要になります。その選択の結果が上っ面では語れないものなんて寂しいことです。そして納得いく結果を求めるときで何も考えずに過ごす、ふるまうなんてことはありえません。そうやってしまうのは考えを放棄しているだけで、道を歩かずにくずくまっているだけです。それならば新しい道を選ぶことも一つの手段です。この相撲部を選んでくれたことは喜ばしいことですが、道半ばで去るときもまた後ろ髪を引くことなく送り出さなくてはなりません。

僕は相撲において最後まで自分の選択を貫くことはできませんでした(よく見積もっても六割ほどでしょうか)。願はくは僕以上に相撲に夢中になって四年間その想いを貫く子が出ることを待っています。

そして最後に、私事ではありませんが現役生活特にお世話になった二人に対して、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います（面と向かって言うのは恥ずかしいものです。書いてしまえば後は話しているときくらいは白を切れるためあえて文書で残す選択をします。）

板倉君へ

入部して同期となつたのは一回生の十月からでしたがそもそもその出会いは四月の少林寺拳法部の新歓の御飯で同じテーブルに座った時でしたね。その時は正直言って色白の頬がふくよかな如何にも運動してこなかつたような子だなという印象でした。その後の相撲部の新歓で会ったときにはまた会うなんて珍しいこともあるのだなというくらいでしたが、その場で入部宣言したことに驚きました。こいつは酔っ払った勢いで言っているのではなからうかと心配もしました。都合よく考えればあの時から僕たちが相撲部で共に歩むことは決まっていたのかも知れません。実力や実績で言ったら僕はあなたよりも上かもしれませんが。しかし相撲に対する心構えやその姿勢において僕は勝っていると思えたことは一度もありません。常にあなたを手本の一つとし、その隣に並びうる人となるのが僕の精進の糧となっていました。僕よりも運動経験も乏しく、僕よりも体も小さく、そして僕よりも多くの怪我に苛まれながらも、その中でできる相撲を探し決して精進を緩めることはありませんでした。よくあなたがいなければ僕は相撲を続けていなかったと言いますが冗談で言ったことなど一度もありません。いくつかの困難に苛まれることがありました。あなたがあなたの支えがあつたことで私は相撲を続けてきたのだと思つています。

あなたには部の運営を任せてしまい多くの負担を負わせてしまいました。たことお詫び申し上げます。稽古で背中を見せることが私の役目だと

思つて努めてきましたが僕はあなたの隣に立つにふさわしい男になれたでしょうか？身勝手ではありますがあなたの同期でいられたことを誇りに思います。

佐藤監督へ

新歓時期に監督が仰つてくれた言葉を今でも覚えています。

「今、相撲部以外の部を選んだとして、実際に続けていくと自分には合わないと思うこともある。そしてやめた後に相撲部を訪れたとしてもウチは歓迎するよ。」

その言葉が、僕が相撲部を選ぶ後押しとなりました。

恩返しをするには結果を出して監督の手腕を示すことだという思いで大会にも臨んでいりましたがなにぶん不肖の弟子でありましたから、最後の最後まで恩返しは果たすことができませんでした。申し訳ございません。

僕を相撲の世界に連れてきてくれてありがとうございます。相談にも乗ってくれたり、出稽古先を探してくれたり、そして何より相撲の楽しさを教えてくれてありがとうございます。この相撲の世界に少しの間でも身をおくことができたことに胸を張って幸せなことだと言えるのは監督のおかげだと思います。微力ではありますがこれからも相撲部には未永く関わっていこうと思つていますのでこれからも宜しくお願い致します。

## 今年の抱負

4 回生 吉田 岳史

大学生活もそろそろ終わるといふ時期を迎えて思うのは、今の自分は入学時に思い描いた将来の自分とはかなりかけ離れているということである。

入学時には運動系の部活を引退まで続け、学士課程修了後に国家公務員になるか大学院に進学する計画だった。字面だけを見れば確かにその通りになったと言える。しかし実態は違う。入学時の自分が今の自分を見たら落胆するだろうし、実際自分でも4年間を無駄に過ごしたという後悔はある。こう言うどと響をかうかもしれないが、法学部は卒業要件を満たす単位を取るだけなら大学に行かずに適当に試験前に少し勉強するだけでも十分なのだ。その上で主体性を持ってどれだけ自分の興味や問題意識がある分野を掘り下げていくかが大事だと思った。受け身になって与えられたものだけ消化していても成長しないことはわかっていたし、大学入学前に親の前で一丁前に話したことを覚えている。しかし、楽をしても何とかなってしまふ状況で意識はしていてもそれができなくなってしまう。結局大学院入試までずっと本気で頑張らなくても乗り切れてしまい、それに甘えて頑張れない人間になってしまったと思う。

卒業後は修士課程に進学するが、この2年間の過ごし方で今後の人生は大きく変わると思っている。学部での4年間は甘えられる環境にいたため成長がなかったと思うし、ちゃんと目標を持って過ごした人とはかなり差がついたと思う。もちろん私も小学生の頃から将来の夢はあり、その実現のために京大に入った。しかし、大学に入ってからその夢は本当に自分がやりたいことではないと思うようになり目標を失ったままダ

ラダラと時間を浪費してしまった。同学年の多くは社会に出るので遅いかもしれないが、一からやり直すつもりで春から大学院で勉強しようと思う。

# 平成三十年度の戦績

## 第六回国際女子相撲選抜堺大会

2018.4.15 堺市大浜公園相撲場

☆団体戦

〔1回戦〕

京阪クラブ ● 0-3 ○鳥取城北高校 A

水谷 ● (押し出し) ○石川

菱沼 ● (寄り倒し) ○古閑

篠田 ● (押し出し) ○角田

☆個人戦超軽量級

〔1回戦〕

菱沼 ● (寄り切り) ○上村 (富士宮北高校)

☆個人戦無差別級

〔1回戦〕

菱沼 ○ (寄り倒し) ● Mak Ka Po (香港)

〔2回戦〕

菱沼 ● (押し出し) ○角田 (鳥取城北高校)

## 第十三回東海近畿リーグ

2018.5.12 滋賀県立武道館

☆個人戦予選

〔Bリーグ〕

浅田 ○ (はたき込み) ● 平井 (大阪)

浅田 ○ (押し出し) ● 米須 (神戸)

浅田 ○ (寄り切り) ● 大矢 (広島)

浅田 ○ (浴びせ倒し) ● 杉浦 (名古屋)

4勝0敗で予選1位通過

〔Cリーグ〕

堀野 ○ (寄り切り) ● 中川 (名古屋)

堀野 ○ (寄り切り) ● 川本 (広島)

堀野 ● (押し出し) ○ 神崎 (大阪)

堀野 ● (下手投げ) ○ 山本 (神戸)

2勝2敗で予選敗退

〔Dリーグ〕

山口 ○ (突き出し) ● 和田 (神戸)

山口 ○ (寄り切り) ● 細川 (名古屋)

山口 ○ (上手投げ) ● 福永 (大阪)

3勝0敗で予選1位通過

〔Eリーグ〕

大津 ○ (寄り倒し) ● 松井 (神戸)

大津 ○ (寄り切り) ● 飯島 (名古屋)

大津 ○ (突き落とし) ● 南 (甲南)

3勝0敗で予選1位通過

☆個人戦決勝トーナメント

〔1回戦〕

山口 ○ (寄り切り) ● 飯島 (名古屋)

大津 ● (押し出し) ○ 福永 (大阪)

〔2回戦〕

山口 ○ (寄り切り) ● 山本 (神戸)

浅田 ● (寄り切り) ○ 打江 (名古屋)

〔準決勝〕

山口 ○ (寄り切り) ● 大嶋 (大阪)

〔決勝戦〕

山口 ○ (寄り切り) ● 打江 (名古屋)

以上の結果山口が優勝

☆女子個人戦

菱沼 ● (突き落とし) ○ 篠田 (大阪大)

川島 ○ (寄り切り) ● 篠田 (大阪大)

菱沼 ● (下手投げ) ○ 川島

以上の結果川島が優勝、菱沼が第三位

☆団体戦

京都●2―3○名古屋

堀野●(押し出し) ○飯島

大津○(押し出し) ●中川

山口○(寄り切り) ●細川

●(不戦勝) ○岡

浅田●(押し出し) ○打江

京都○3―2●大阪

堀野●(押し出し) ○神崎

大津○(上手投げ) ●大嶋

山口○(寄り切り) ●福永

●(不戦勝) ○平井

浅田○(上手投げ) ●南

京都○3―2●神戸

堀野○(寄り倒し) ●米須

大津○(押し出し) ●松井

山口○(寄り切り) ●山本

●(不戦勝) ○和田

●(不戦勝) ○辻

京都●1―2○広島

堀野●(突き落とし) ○大矢

大津○(押し出し) ●川本

山口●(勇み足) ○伊藤

(両者棄権)

(両者棄権)

2勝2敗で第三位

第三十六回全国公立大学対抗相撲大会

2018.5.20

三鷹市SUBARU総合スポーツセンター

☆団体戦予選

京都○3―2●北海道

吉田●(上手投げ) ○三浦

大津○(押し出し) ●根来

堀野●(押し出し) ○上仲

浅田○(吊り出し) ●長谷部

板倉○(押し出し) ●富川

京都●2―3○東京

吉田○(押し倒し) ●須山

大津●(腕捻り) ○岡

堀野●(寄り倒し) ○山添

浅田○(きめだし) ●湯浅

板倉●(上手投げ) ○田辺

京都●2―3○高知

吉田●(引き落とし) ○山本

大津●(寄り倒し) ○高橋

堀野●(上手出投げ) ○林

浅田○(不戦勝) ●

板倉○(不戦勝) ●

京都○3―2●名古屋

吉田○(送り出し) ●飯島

大津○(寄り倒し) ●中川

堀野●(押し出し) ○細川

浅田●(寄り切り) ○打江

板倉○(押し出し) ●岡

以上の結果、2勝10点で予選敗退

☆新人戦

〔1回戦〕

大津○(寄り倒し) ●尾田(名古屋)

〔2回戦〕

大津○(突き倒し) ●勝本(九州)

〔3回戦〕

大津●(突き出し) ○福永(大阪)

☆個人戦

〔1回戦〕

堀野●(不戦勝) ○平山(防衛)

大津●(首投げ) ○米島(防衛)

板倉●(押し出し) ○ドウルグーン(防衛)

吉田○(不戦勝) ●福士(東京)

浅田●(不戦勝) ○越後(防衛)

〔2回戦〕

吉田○(不戦勝) ●高橋(高知)

〔3回戦〕

吉田○(押し出し) ●上仲(北海道)

〔4回戦〕

吉田●(押し倒し) ○福永(大阪)

第九十二回西日本学生相撲選手権大会

2018.6.3 堺市大浜公園相撲場

☆2部団体戦予選

〔1回戦〕

京都●1-4 ○龍谷

吉田●(送り出し) ○山岸

板倉●(突き出し) ○田中

大津●(押し倒し) ○村上

浅田○(突き落とし) ●中原

山口●(寄り切り) ○青木

〔2回戦〕

京都○5-0 ●大阪歯科

吉田○(押し出し) ●布袋

板倉○(押し出し) ●田上

大津○(押し出し) ●長松

浅田○(吊り出し) ●鈴木

山口○(押し出し) ●岡森

〔3回戦その1〕

京都●0-5 ○愛知学院

吉田●(押し出し) ○藤下

板倉●(突き落とし) ○磯和

大津●(突き落とし) ○菊川

浅田●(寄り切り) ○加藤

山口●(寄り切り) ○坂井田

得点最小校になり龍谷大学と対戦

〔3回戦その2〕

京都●1-4 ○龍谷

吉田●(押し出し) ○山岸

板倉●(突き出し) ○田中

大津●(突き落とし) ○村上

浅田●(押し倒し) ○梅原

山口○(押し出し) ●青木

以上の結果、1勝7点で予選敗退。

☆個人戦

〔1回戦〕

板倉○(不戦勝) ●大谷(奈医)

堀野○(不戦勝) ●谷口(関西)

山口○(浴びせ倒し) ●仁木(関西)

大津○(寄り倒し) ●伊藤(関西)

吉田○(押し倒し) ●梶原(関西)

浅田●(不戦勝) ○中原(龍谷)

〔2回戦〕

板倉●(押し出し) ○小西(東海学)

堀野●(突き倒し) ○菊川(愛学)

山口○(突き倒し) ●鈴木(奈良医)

大津●(下手投げ) ○榎木(愛学)

吉田●(寄り切り) ○東根(東海学)

〔3回戦〕

山口●(突き倒し) ○坂井田(愛学)

第三十回京都府アマチュア相撲選手権大会

2018.6.10 京都市武道センター

☆予選

〔1回戦〕

佐藤●(押し出し) ○北村(同志社)  
山口○(蹴繰り) ●丹羽(立命館)  
松井●(押し倒し) ○池田(日吉ヶ丘高校教員)

〔2回戦〕

松井●(寄り切り) ○北村(同志社)  
佐藤●(浴びせ倒し) ○岩倉(立命館)  
山口●(寄り切り) ○櫻井(立命館)

予選3回戦

山口●(押し出し) ○田中(同志社)  
松井●(押し出し) ○村上(同志社)  
佐藤●(寄り切り) ○池田(日吉ヶ丘高校教員)

以上の結果、山口予選1勝、松井・佐藤予選0勝、  
いずれも予選敗退

第四十三回西日本学生相撲個人体重別選手権大会

2018.7.29 堺市大浜公園相撲場

☆75キロ未満級

〔1回戦〕

板倉●(下手投げ) ○鮎本(同志社)  
堀野●(すくい投げ) ○磯和(愛学)

☆100キロ未満級

〔1回戦〕

山口○(突き出し) ●古田(朝日)  
浅田●(不戦勝) ○中井(近畿)  
大津●(不戦勝) ○津田(朝日)

〔2回戦〕

山口○(寄り切り) ●吉永(九情)

〔3回戦〕

山口○(上手投げ) ●小原(金学)

〔準決勝〕

山口○(蹴返し) ●中井(近畿)

〔決勝〕

山口●(送り出し) ○谷岡(近畿)

以上の結果、山口が100キロ未満級準優勝。

第五十七回全国七大学総合体育大会相撲競技

2018.8.19 京都市武道センター

☆団体戦

京都●2―3 ○名古屋

大津●(寄り倒し) ○飯島

堀野●(寄り倒し) ○岡

浅田○(上手投げ) ●清水

山口○(突き出し) ●中川

板倉●(押し出し) ○打江

京都○4―1 ●北海道

大津○(寄り倒し) ●根来

堀野●(押し出し) ○三浦

浅田○(寄り倒し) ●長谷部

山口○(押し出し) ●上仲

板倉○(上手投げ) ●富川

京都●2―3 ○東北

大津○(寄り切り) ●小池

堀野●(叩き込み) ○大藤

浅田●(寄り切り) ○千葉

山口○(押し出し) ●秋山

板倉●(突き出し) ○春原

京都○3―2●東京

大津○(引き落とし) ●須山

堀野●(突き落とし) ○野口

浅田○(小手投げ) ●田辺

山口○(寄り切り) ●山添

板倉●(寄り倒し) ○湯浅

京都○4―1●九州

大津○(不戦勝) ●

堀野●(すくい投げ) ○高倉

浅田○(叩き込み) ●船岡

山口○(寄り切り) ●勝本

板倉○(不戦勝) ●

京都○3―2●大阪

大津●(すくい投げ) ○大嶋

堀野●(押し出し) ○福永

浅田○(突き落とし) ●宇野

山口○(送り出し) ●神崎

吉田○(押し出し) ●平井

以上の結果、4勝19点で第三位

☆個人戦65キロ未満級

〔1回戦〕

堀野●(切り返し) ○長谷部(北海道)

☆個人戦85キロ未満級

〔1回戦〕

板倉●(下手投げ) ○根来(北海道)

☆個人戦85キロ超級

〔1回戦〕

浅田●(腕捻り) ○秋山(東北)

吉田●(不戦勝) ○大藤(東北)

大津●(寄り切り) ○三浦(北海道)

山口●(不戦勝) ○大嶋(大阪)

☆個人戦総合

〔1回戦〕

山口●(不戦勝) ○船岡(九州)

堀野●(浴びせ倒し) ○岡(名古屋)

浅田○(不戦勝) ●勝本(九州)

吉田●(不戦勝) ○富川(北海道)

板倉●(押し倒し) ○飯島(名古屋)

大津●(上手投げ) ○上仲(北海道)

〔2回戦〕

浅田○(叩き込み) ●中川(名古屋)

〔3回戦〕

浅田○(突き出し) ●山添(東京)

〔4回戦〕

浅田○(押し倒し) ●益田(東京)

〔準決勝〕

浅田●(送り倒し) ○福永(大阪)

以上の結果、浅田が個人戦総合第三位

☆女子個人戦

川島●(寄り倒し) ○田代(大阪)

川島●(寄り切り) ○篠田(大阪)

以上の結果、川島が第三位

### 第四十一回双青戦相撲競技(東大京大戦)

2018.09.01 京都大学相撲場

#### ☆団体戦

京都○3―2●東京

板倉●(突き出し) ○野口

山口●(寄り切り) ○田辺

浅田○(寄り切り) ●湯浅

吉田○(不戦勝) ●須山

大津○(寄り倒し) ●益田

以上の結果、優勝

#### ☆個人戦予選

##### Aリーグ

山口○(寄り切り) ●田辺(東京)

山口○(押し出し) ●益田(東京)

山口○(寄り切り) ●吉田(京都)

山口○(寄り切り) ●大津(京都)

4勝0敗で予選通過。

吉田○(寄り倒し) ●田辺(東京)

吉田○(引き落とし) ●益田(東京)

吉田●(寄り切り) ○山口(京都)

吉田○(寄り倒し) ●大津(京都)

3勝1敗で予選通過。

大津●(寄り切り) ○田辺(東京)

大津○(寄り切り) ●益田(東京)

大津●(寄り切り) ○山口(京都)

大津●(寄り倒し) ○吉田(京都)

1勝3敗で予選敗退。

以上の結果、吉田、山口決勝リーグ進出

##### Bリーグ

板倉●(送り出し) ○野口(東京)

板倉●(寄り切り) ○湯浅(東京)

板倉●(寄り倒し) ○浅田(京都)

0勝3敗で予選敗退。

浅田●(寄り倒し) ○野口(東京)

浅田○(寄り切り) ●湯浅(東京)

浅田○(浴びせ倒し) ●板倉(京都)

以上の結果、浅田が決勝リーグ進出

#### ☆個人戦決勝トーナメント

山口○(寄り切り) ●浅田(京都)

吉田●(押し出し) ○野口(東京)

#### 〔3位決定戦〕

浅田○(寄り切り) ●吉田(京都)

以上の結果、浅田が第三位

#### 〔決勝〕

山口○(寄り切り) ●野口(東京)

以上の結果、山口優勝

### 第四十三回全国学生相撲個人体重別選手権大会

2018.9.2 堺市大浜公園相撲場

#### ☆100キロ未満級

##### 〔1回戦〕

山口●(内掛け) ○村山(専修)

### 第三回京阪神戦

2018.9.29 京都大学相撲場

京都●1―2○大阪

大津●(下手捻り) ○神崎

吉田●(不戦勝) ○福永

浅田○(寄り切り) ●南

京都○2―1●神戸

大津○(突き出し) ●米須

吉田●(不戦勝) ○山本

浅田○(寄り切り) ●松井

以上の結果京都大学が準優勝

☆男子個人戦予選

Aリーグ

浅田○(寄り切り) ●神崎

浅田●(寄り切り) ○福永

浅田○(寄り切り) ●米須

2勝1敗で予選2位通過するも怪我のため棄権

Bリーグ

大津●(寄り切り) ○大嶋

大津●(首投げ) ○南

大津○(突き倒し) ●松井

大津○(寄り倒し) ●山本

2勝2敗で予選敗退

## 第九十六回全国学生相撲選手権大会

2018. 11. 3 両国国技館

☆団体Cクラストーナメント

〔準々決勝〕

京都○1―4●東京

吉田○(押し倒し) ●須山

山口●(寄り倒し) ○野口

浅田●(外がけ) ○田辺

大津●(押し出し) ○益田

板倉●(寄り倒し) ○湯浅

以上の結果、準々決勝敗退

☆個人戦

〔1回戦〕

吉田●(寄り切り) ○東(明治)

山口●(押し出し) ○福田(法政)

板倉●(押し出し) ○岩間(専修)

## 寄付者ご芳名（平成30年1月～12月）

### ●全国OB会費納入者

谷岡 博 様  
川口 理宏 様  
斉藤 隆 様  
秦 文男 様  
森崎 健二 様  
鈴木 弥寿夫 様  
渡辺 正幸 様  
久我 昂 様  
河野 市三郎 様  
羽毛田 信吾 様  
中原 哲二 様  
井川 明 様  
太田 昭宏 様  
世良 孝 様  
片岡 文洋 様  
香田 圓 様  
田岡 寛 様  
東 和臣 様  
新郷 直仁 様  
川田 晴美 様  
谷 直樹 様  
鎌田 隆義 様  
藤堂 明 様  
小野 公二 様  
一瀬 克章 様  
島田 和俊 様  
梶川 雅司 様  
田村 光 様  
中川 泰彰 様

村上 明 様  
大野 益民 様  
山口 隆司 様  
金澤 俊郎 様  
小泉 望 様  
若井 眞弓 様  
山手 秀之 様  
井上 正夫 様  
金澤 晴美 様  
広川 毅 様  
佐藤 健一 様  
山本 登志樹 様  
鈴木 実 様  
十枝 慶二 様  
平岡 俊明 様  
福見 尚哉 様  
西村 幸輔 様  
豊田 政史 様  
武藤 太郎 様  
小森 潔 様  
小森 真理子 様  
河本 智也 様  
榎本 行浩 様  
今野 友夫 様  
田中 晋平 様  
上野 一郎 様  
日浦 一 様  
川崎 倫久 様  
山岸 弘哉 様  
池田 啓太 様

崎山 直人 様  
宮島 大輔 様  
栗木 周 様  
井上 喬允 様  
村井 隆史 様  
佐藤 王也 様  
中野 千晴 様  
古屋 皓平 様  
谷澤 遼 様  
北村 光平 様

### ●その他寄付者

廣川 敬祐 様（新OB）  
小西 堯生 様（新OB）  
松井 正冬 様（コーチ）  
佐藤 静雄 様（後援者）  
平尾 浩一 様（後援者）  
現役部員の保護者の皆様

### ●賛助会員等

科研製薬株式会社 様  
京セラメディカル株式会社 様  
株式会社 洛北義肢 様  
久光製薬株式会社 様  
株式会社 増田医科器械 様  
株式会社 大井製作所 様  
吉川病院 様  
日本ストライカー株式会社  
大阪支店 様  
京都府相撲連盟 様

本年もたくさんの方々から多大なご寄附を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。  
今後とも、京都大学相撲部へのご支援をよろしくお願いいたします。

## 京都大学相撲部全国OB会より

OB OGの皆様へ

皆様から納入いただいた全国OB会費が現役活動資金の柱となっております。  
年に1度、下記に是非納入いただきますようよろしくお願いいたします。

金融機関	店番	預金種目	口座名義	口座番号
ゆうちょ銀行 四四八店	448	普通預金	キョウトダ`イ`クモウブ`ゼンコクオ`ビ`カイ 京都大学相撲部全国OB会	4503410

本件に関するお問合せ先      メール    kyodai.sumo@gmail.com (京大相撲部公式アドレス)

---

### 現役の日々の活動について

稽古の様子、大会の予定、大会の結果など日々の活動は、ホームページ、ブログ、facebook、twitterで随時発信しております。どうぞご覧ください。

ホームページ    <http://kyodaisumo.sakura.ne.jp> 「京都大学体育会 相撲部」

※URL が変更になりました

ブログ            <http://sumo0930kyoto.blog36.fc2.com/> 「ドキッ☆ほぼ男だらけの相撲部日記」

facebook        <https://www.facebook.com/kyodaisumo>

Twitter           @kyodai\_sumo

---

### 京都大学相撲部 連絡先

●住所

〒606-8304

京都市左京区吉田下阿達町 46

京都大学課外体育施設内 相撲場

●公式メールアドレス

kyodai.sumo@gmail.com

### 編集後記

今回の部誌は、いかがでしたでしょうか。  
今後も稽古や大会、新人勧誘に頑張ります  
と共に、ご支援くださっている皆様に私達の  
活動を知っていただけるよう努めてまいり  
ます。部員の数や活動資金に依じて、広報活  
動の厚薄があるかと存じますが、京都大学相  
撲部を変わらず応援いただけると幸いです。  
最後までお読みいただき、ありがとうございます。

編集長 主将 浅田 恭國